

海外アカデミック・ディスカッション	
臨床に根ざした音楽療法のリサーチ方法について	
山本（生野） 里花	比較社会文化学専攻
期間	2010年10月14日～2010年10月28日
場所	アメリカ合衆国（ニューヨーク、フィラデルフィア、サンタバーバラ）
施設	TOTS, Inc., ニューヨーク大学, レベッカ・スクール, ベス・アブラハム病院, テンプル大学、及び同大学教授私宅, アンティオーク大学教授私宅

内容報告

1. プロジェクトの目的

今回のプロジェクトは、臨床に根ざした音楽療法の研究方法を討論することを主眼として計画した。

2. 日程と内容

2.1 TOTS, Inc. : 音楽療法士 David. Murcus 氏、他 (10月15日)

ブロンクス地区の就学前障害児療育施設 TOTS¹を訪ね、音楽療法士 Murcus 氏ら²によるグループ音楽療法を5例見学した。対象児の動きや発声のダイナミズムを取り込んだ即興的・自然主義的・音楽中心のアプローチは、博士論文で取り上げる私の症例とも通じるものが多く、非常に参考になった。また当日、ニューヨーク大学の Guererro 氏がリサーチ目的の録画に訪れており、その意見も交えて討論することができた。

2.2 ニューヨーク大学ノードフ・ロビンズ音楽療法センター : 所長 Alan Turry 博士 (10月15日)

ノードフ・ロビンズ創造的音楽療法³は、私が临床上、多大な影響を受けた方法論であるが、ここ10年程同センターを訪れる機会がなかった。今回、その実践と研究の「現在」について大きな関心を持って訪問した。Turry 博士から、センターの現況とリサーチ計画についての概観を、最新のプロモーション・ビデオを交えて聞くことができた。

2.3 ニューヨーク大学ノードフ・ロビンズ音楽療法センター : リサーチ・コーディネーター Nina Guerrero 氏、他 (10月16日)

同センターで3例の音楽療法セッションを見学し、1例についてセッション後の記録作業に立ち会った。またセラピストらの合同ミーティングに同席し、その共通テーマや討論に触れることができた。

さらに、Guerrero 氏から同センターのリサーチの新しい方向性と方法について詳説を受けた。人間主義的・直観的な視点に立った臨床をどのように社会の他領域の専門家と分かち合っていくのかについて、

興味深い意見が聞かれた。

2.4 レベッカ・スクール : 音楽療法士 Stacey Hensel 氏 (10月18日)

マンハッタンに地区ある、4歳から18歳までの主に広汎性発達障害児のための学校レベッカ・スクールで音楽療法を見学した。アートやドラマと並ぶ創造的芸術療法プログラムの一貫として行われており、1人の子どもが週に2～3回の個人音楽療法を受けられるという、臨床的にも研究的にも理想的な設定であった。この日、2つのセッションを見学し、その目的や記録と評価の方法についての解説を受けた。

2.5 テンプル大学教授 Kenneth Aigen 博士私宅 (10月18日)

音楽療法質的研究の指導的研究者の一人である Aigen 博士⁴を訪ね、私の二つの論文発表「ある個人音楽療法セッション・プロセスにおける関係性の展開—重度発達障害児と音楽療法士の双方に焦点を当てて—」（第10回日本音楽療法学会にて発表、9月23日）と、「関係性と意味性: 重度知的障害児との音楽療法場面を解釈する方法の検討」（第42回日本芸術療法学会にて発表、10月30日）について3時間半にわたり意見を聞いた。音楽療法における質的研究の位置づけや臨床的視点について、多くの発見があった。

2.6 ベス・アブラハム病院音楽神経機能研究所 : 音楽療法部長 Benedikte Scheiby 氏 (10月19日)

ニューヨーク地区でも歴史ある音楽療法臨床現場として定評のあるベス・アブラハム病院⁵を訪れた。この日は、学生インターンのスーパービジョン、ヨガを取り入れた神経難病高齢者グループの音楽療法、同じく青年グループのバンド活動などを見学し、さらにリサーチ部長の Mijin Kim 博士から同研究所が力を注ぐ量的リサーチの解説を受けた。量的・質的リサーチの意味づけや社会的役割にも議論が及び、非常に刺激的だった。

2.7 テンプル大学大学院 : Kenneth Aigen 教授 (10月10～23日)

同大学で音楽療法を専攻する修士・博士課程の学生と共に音楽療法質的研究の講座を聴講した。教授の講義のほか、学生による質的リサーチ・プロジェクトの発表にも加えて頂き、具体的かつ概念的な討論をすることができた。

2. 8 アンティオーク大学教授 Carolyn Kenny 博士私宅 (10月24~26日)

前述のふたつの論文について、Kenny 博士⁶ に現象学的・解釈学的視点に関する意見を聞いた。同じ論文についての Aigen 博士からのコメントを交え、微妙に異なる意見を対比しながら議論することは大変興味深かった。また解釈学的研究の前提となる考え方、方法論、とくに健康科学の領域で深まってきた議論についての知識を得ることができた。

3. 終わりに

日本の音楽療法臨床家の間での質的リサーチのニーズは高まっており、国際的な議論に積極的に加わっていくことが望まれる。今回、2週間という短期間ではあったが、様々の立場・意見の臨床研究者との議論の糸口を作ることができたのは大きな収穫だった。

音楽療法の概念や研究方法への考え方は、特定の社会、特定の機関の歴史や社会的役割、そしてセラピスト個人の職業的役割や個人史によって異なる育ち方をすることを実感すると共に、今回会った人たちは皆、自分自身の立場について明確な裏付けのもとに論述していたことに強い印象を受けた。そこに私自身の考え方を反映させて見つめ直すこともできた。

成果は、日本芸術療法学会誌、日本音楽療法学会誌への投稿を検討すると共に、これからもこうした研究者たちとの議論を続行し、博士論文を熟成させていきたいと考える。

注

1. These Our Treasures, Inc. : 1970年、この地区の障碍児の親たちによって始められた自主療育活動が基盤となり、後に学校となった。
2. 同氏は後述するノードフ・ロビンズ音楽療法センターに勤務する傍ら、マンハッタン地区に Creative Music Therapy Studio を開いており、TOTS の経営陣がその活動に共感して同校の音楽療法プログラムに招聘している。
3. 1950~60年代に作曲家兼ピアニスト、Paul Nordoff と特

殊教育家 Clive Robbins によって創始された音楽療法で、人間主義心理学と即興演奏を軸とする。以来、北欧、イギリス、ドイツ、アメリカ、オーストラリア、日本、韓国などで多彩な展開を見せてきた。

4. 2006年までニューヨーク大学ノードフ・ロビンズ音楽療法センターの指導的立場にあり、現在テンプル大学で教鞭をとる。質的リサーチ、音楽基盤的音楽療法に関する臨床及び理論研究の著作が多数ある。
5. 音楽心理療法、MIDI 器機による音楽療法、コミュニティのグループ音楽療法、神経リハビリテーションプログラム、認知症音楽療法、緩和ケア音楽療法、リラクゼーション及びストレス・マネジメント音楽療法など、現代の多彩な音楽療法を包括的に取り入れている病院。
6. 文化コンテキストを重視した音楽療法、心理療法的音楽療法、質的方法論などの研究に力を入れ、大学で教鞭をとるかたわら、Voices: A World Forum for Music Therapy の共同編集長も勤める。

参考文献

- Aigen, K. (1996) *Being in Music: Foundation of Nordoff-Robbins Music Therapy*, MMB Music, Inc.
- Creswell, J.W. (2007) *Qualitative Inquiry & Research Design: Choosing Among Five Approaches*, Sage Publications.
- Kenny, C. B. (1989) *The Field of Play: A Guide for the Theory and Practice of Music Therapy*, Ridgeview Publishing Company. (近藤里美(訳) 2006『フィールド・オブ・プレイ -音楽療法の「体験の場」で起こっていること』春秋社)
- Marshall, C., Rossman, G.B. (2011) *Designing Qualitative Research*, Sage Publications.
- Nordoff-Robbins Center for Music Therapy: Research*. <http://steinhardt.nyu.edu/music/nordoff/research/> (2011年11月27日閲覧)
- Robbins, C. (2005) *A Journey into Creative Music Therapy*, Barcelona Publishers. (生野里花(訳) 2007『音楽する人間：ノードフ・ロビンズ創造的音楽療法への遙かな道』春秋社)
- Van Manen, M. (1990) *Researching Lived Experience: Human Science for An Action Sensitive Pedagogy*, SUNY.
- Voices: A World Forum for Music Therapy*. <http://www.voices.no/> (2011年11月27日閲覧)